

- 実際にタイとインドに行った学生による、平成23年度インターンシップ報告です！

# 海外インターンシップの目的

国際ビジネスや異文化環境に触れ、企業の海外進出を目で見て肌で実感すること、諸講義で学んできた理論や概念がどのように実践されているかを体験し、検証することが目的です。

平成23年度の研修先は、株式会社 村元工作所(タイ)と新田ゼラチン株式会社(インド)の2社です。



# 企業概要



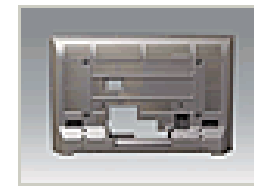
西神第2工場(本社)

- 会社名:株式会社 村元工作所
- 創業:1935年
- 資本金:8000万円
- 代表取締役会長:村元 信吾
- 従業員数:約16000人(グループ全体)
- 売上高:年商 235億円(2010年9月)
- 事業内容:金属プレス加工、組立金型設計・製作など
- 製造品目:車両用音響機器、プラズマディスプレイ、デジタルビデオカメラの金型設計・製作、金属プレス加工、基板実装、樹脂成形部品...
- 主要取引先:富士通、パナソニック、キャノン、三菱電機、NEC、エプソン、ソニー、三洋電機、日立など
- 企業理念:お客様を大切にする心、技術・品質を第一とする心、従業員を大事にする心

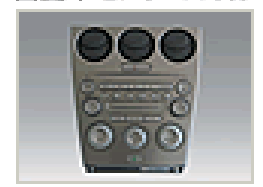
DVDシャーシ



PDPバックパネル







自動車センターパネル



# タイ国の工場について

- 村元グループ内で最大規模の工場
- 事業内容: プレス加工、樹脂成形、基盤実装、塗装、印刷、組立の一貫受注

METCO1	METCO2	METCO3	STC
			
<p>設立: 1987年6月 436名(内日本人8名) 金属プレス加工、溶接、表面処理(黒化処理)</p>	<p>設立: 1990年9月 4,783名(内日本人54名) 精密プレス&amp;金型、樹脂成形&amp;金型、メカ組立、塗装&amp;印刷、バックライト(基本設計、金型設計&amp;製作・成形・サブ組立)</p>	<p>設立: 2005年10月 1,912名(内日本人21名) メカ組立、基板実装</p>	<p>設立: 1995年6月 1,889名(内日本人19名) 精密プレス加工、メカ組立</p>

# METCO研修スケジュール

月日	午前	午後
8月29日	オリエンテーション	①KTC部門、②金型・加工・組立部門
8月30日	③プレス工場紹介	プレス工場見学
8月31日	④PPD部門	⑤成形部門 ※棚卸見学
9月1日	⑥MAD部門	⑦EC部門
9月2日	⑧品質管理部門	⑨購買部門
9月3日	⑩営業部門	⑪週まとめ
9月4日	休日	
9月5日	⑫EPSON & BL部門	⑬SMT部門
9月6日	⑭SMD部門	⑮HRD部門
9月7日	学生側より大学紹介	発表準備
9月8日	発表準備	
9月9日	研修総まとめ・最終発表	



# 研修風景

企業の規則につき、敷地内の写真撮影は禁止。  
人事部門の方の提供写真です。



外部監査機関との環境審査を同行



廃材置き場の視察

# 研修風景



人事部門での研修



ローカル・マネジャーとの交流



# 新田ゼラチン 株式会社（インド）

事業概要：食用、医療用、写真用各種ゼラチンの製造販売

海外拠点：インド、アメリカ、カナダ、中国

インド法人では、  
オセインの製造、  
食用、医療用ゼラチンの  
製造、販売を行っている。





# スケジュール

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
8/28 到着	29 RO	30 SCMS	31 OD	9/1 GD	2 GD 結婚式	3 Cultural day Munnar 一泊二日
4 Munnar	5 GD Onam	6 SCMS	7 GD	8 GD インド史	9 Cultural day 市内観光	10 最終プレゼン ハウスポート
11 Shopping	12 Cultural day (ポート)	13 コーチンを 発つ	14 帰国			

※ RO・・・Registered Office: NGILインド本社。

GD・・・Gelatin Division: ゼラチンの製造を行っている工場。

OD・・・Ossein Division: オセイン(ゼラチンの原料)の製造を行っている工場。

SCMS・・・School of Communication and Management Studies、経営大学院。

# 研修風景



現地法人オフィス訪問  
(RO)



現地法人でのレクチャー  
(RO)

# 研修内容



生産についてのレクチャーと工場見学  
(OD)



現地大学院でのプレゼンテーション  
(SCMS)

# 個人感想

- 安ジヒョン(タイ)

自ら問題意識を持ち、それらを発見し、解決するために現場の声を重視しながら、より良い提案ができるよう心がけていました。学校などでは学ぶことができない、現場を通じての経営について学ぶことができ、自己成長にも繋がるような経験でした。

- 木戸貴也(インド)

私が今回のインターンシップで学んだことで、最も大きなものは「新興国に行けば、生活習慣や商習慣など起こることすべてを受け入れ、自ら対応しなければならないということ」です。国内だけでなく、海外で事業を展開する企業が増えれば増えるほどこの言葉の意味が増すのではないかと考えています。

- 松下陽介(タイ)

私は今回の海外インターンを終えて、特に印象深かったことが一つあります。それは外部環境の影響力についてです。環境が一変すると人の感性や思考に影響を与えます。今回のインターンではそのことを頭と体で感じた貴重な体験となりました。

- 本木翔子(インド)

今回のインターンシップで、最も印象に残ったのは現地のバイタリティの高さです。インドでお世話になった企業では日本の一子会社にも関わらず、自ら生産や人事について改善を加えており、子会社は親会社の言うことを聞くだけと考えていた私は国際企業の実態を知ることができ、非常に驚きました。